

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390700106		
法人名	株式会社 なかよし		
事業所名	グループホームこよし		
所在地	岡山県井原市高屋町3-25-30		
自己評価作成日	平成30年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanistruue&ligvosyocd=3390700106-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成30年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔や笑い声のある家庭的な雰囲気の中で、入居者様一人ひとりが自分らしく穏やかに過ごしていただけるよう柔軟な対応を心掛けています。また、ご本人とご家族の絆を大切にしながら、ご家族も安心して過ごしていただけるよう連絡を密にし一緒に支え合っていけるよう信頼関係を作っていくと考えています。毎月お楽しみランチを企画し、一人ひとりのできる力やペースを大切にしながら、入居者様と職員で買い物・昼食作りをしています。また、季節を感じたり気分転換を図る散歩やドライブにも出かけています。入居者様が出来る事で力を発揮し役割を持って頂けるよう応援しています。夜勤者に加え宿直者が常勤しており、夜間の安心も増えました。鳥取大学医学部の浦上教授の開発された「物忘れ相談プログラム」を実施し、認知症改善に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりに合わせた支援に努めている。起床の声かけの反応に応じて、朝食時間をずらす等の対応をしている。嚥下状態が悪くなり錠剤が呑み込めなくなった利用者には医師に相談して全て粉碎にし食材に混ぜて提供する等している。外の空気を吸いたいとの希望があれば、わずかな時間でも散歩に出掛けるように努めている。利用者が不調時の訴えがしにくくなってきた時には、日々の様子の観察はもちろん脈や血圧などからも状況を把握するようにしている。いつもと様子が違う場合は家族に連絡相談し病院を受診している。先日も腎炎を発見する事が出来た。職員はかかりつけ医や看護師と連携を図り対応に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に認識していただけるよう施設内の目につく所数か所に掲示している。ミーティングや日々の業務の中で、何を優先してケアを行うかを決める軸になっている。	理念を従業員用トイレ、相談室、事務所などに掲げ実践に努めている。理念に掲げる「ご利用者様一人ひとりが自分らしく尊厳ある暮らしができるよう関わり続けます」通り、利用者の話をよく聞き本人に合った支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して働きかけ学校行事への誘いをいただき、参加することが出来た。また、地域のお祭りにも参加させていただいた。散歩の途中、近所のお宅の庭の花を見せて頂く事も多い。	学校の文化祭や運動会へ午前と午後に分かれて参加している。秋祭りには子供神輿も駐車場に来てくれる。祭りが好きな利用者が多く、毎年楽しみにしている。紅白の餅が贈られ、ぜんざいに入れて皆で美味しく食べた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事例報告を行い、地域の方々に理解を得ている。また、学校などの行事に参加させていただいたことが地域との馴染みの関係づくりにつながると考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催、事業報告を行っている。地域の方の率直な意見をいただき、理解を得ながら日々の支援に活かしている。	事業所の取り組み内容を伝え、認知症についての理解を深めてもらっている。参加者からは地域の行事を教えてもらい、利用者が喜びそうな行事の場合は参加をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者も運営推進会議に出席していただき、取り組みを伝えている。そこでの意見や情報をサービスに行かし、協力的な関係を築けるよう努めている。	運営推進会議に出席してもらい、事業所の実情やサービスの取り組みを伝え、理解を深めてもらっている。市の担当者とは相談に乗ってもらえる関係性が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は入居者がその人らしく暮らしていけるよう関わっている。ミーティングと同時に勉強会を開催。身体拘束をテーマに取り上げ、正しい理解をしたうえで安全かつ行動を制限しないケアを行っている。	身体拘束をしないケアの実践に努めているが、転倒防止の為一時的に家族の許可を得て夜間のみベット柵をしたこともある。出来る限り身体拘束をしないケアの実践のために代替案を皆で話し合い検討をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の立場に立って耳を傾け声掛けや態度に気をつけている。虐待が見過ごされることがないように防止に努めている。毎年勉強会を開催。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ制度を利用する入居者がおられない。必要時には活用できるよう学ぶ機会を、と考えているがまだできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約業務を行う。本人、家族に内容を説明させていただき、理解納得のうえ押印サインをいただいている。また、改定時にはそれぞれに説明させていただき、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置している。入居者やご家族が気軽に意見や要望を話していただける関係づくりを心掛けている。意見、要望は早急に対応し運営に反映させていく。	家族との信頼関係を築くことで何でも言ってもらえる間柄が出来ると考えている。そのため訪問時も積極的に話かけたり、電話やメールでの連絡も頻回に行ったりするように努めている。家族との良好な関係のお陰で、利用者の要望等も把握しやすい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングを設け、職員の意見を引き出している。その日の勤務者で検討したり「申し送りノート」で全体の統一を図り早く正確な対応を心掛けている。	管理者と職員は何でも言える関係が構築されている。代表者もこまめに事業所へ立ち寄り、「何かないですか」と声を掛けてくれる為、何でも言いやすい。タイムカードの横に意見箱も設置され、いつでも意見や要望が言える環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各々自己評価を年数回行い、代表者は個々の努力や実績、意欲、勤務状況を把握評価し、やりがいのある職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や、外部研修に順番に参加する機会を設け、参加したメンバーから勉強会等で皆に広めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市サービス連絡協議会や地域の研修会に出席しながら、他の事業所と交流を図ったり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約までに本人と面談し、不安なこと、当事業所に臨むことををお聞きしながら、安心につながるような声掛け・説明を行い、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前までの家族の負担、不安や本人への思いにじっくり耳を傾けて一緒に支え合う関係でいられるよう信頼のおける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面談する段階で、どういう関わりが必要か、どう関われば家族も安心して生活が送れるかを見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の気持ちを常に持ち、本人の意思を大切にしながら、できることで役割を持っている。食器洗い、洗濯干し、買い物など日常生活でそれぞれに出来ることをしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も本人の様子を家族に密に伝えながら、いつでも面会に来て頂ける雰囲気づくりを大切にしている。受診の同行、買い物など家族との外出もあり、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に訪問して頂けるよう声掛けや雰囲気づくりに努めている。知人宛のハガキを本人に代わり投函したり、来所時、会話のフォローをさせていただくこともある。	家族の面会が増えればと考え、「朝でも晩でもいつでもお越し下さい」と機会がある度に伝えている。利用者が書いた短歌が新聞に掲載され、それを見た知人から手紙が届き、その後手紙のやり取りの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの様子を観察し、関わりがもてるよう席を考えたり、職員が関わることで孤立せず、穏やかに過ごせるよう雰囲気作りに努めている。居室で過ごされる方に了解を得て訪問される利用者もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される場合は、必要な情報提供を行う。終了後も、本人、家族の希望があれば相談に応じるなど随時対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりで行われる会話から本人の希望や思いを把握する様にしている。又、困難な場合は表情や行動に注意してサインを見つけるようにしている。	利用者が重度化し、明確な答えが出なかったとしても「何がしたいですか」「何か食べたい物がありますか」等尋ねている。何か言葉を発してもらえれば、そこから連想して利用者の思いを汲んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族にバックグラウンドを書いていただいて、生活してきた様子を把握するようにしている。本人との会話からこだわりを、また以前の担当ケアマネからの情報もいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者一人ひとりの体調の変化に合わせ1日の過ごし方を他スタッフと情報交換し、その人に合った無理のないリズムをつくるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者一人ひとりに担当職員を決めている。本人や家族の意向を伺い、スタッフの中で情報を共有し課題の設定をする。どのような方法で支援するかなど検討している。	半年毎に見直しを行っている。利用者と家族の意向を聞き、介護計画に反映させている。「事業所にお任せします」と言われれば、利用者の会話の内容から思いを汲み取り、目標を掲げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録し、申し送りを行い、職員の中で共用し、ケアに活かすようにしている。モニタリング、介護計画見直し時も活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応するため、本人や家族の思いにあわせて、本人の状態把握を行うとともに、家族の現在の状況を把握している。法人内デイでの合同行事を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のカフェや、学校での行事などへ参加するなど地域との関わりや外出する機会をつくり、生活の中にも楽しみをもって過ごすようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を大切にしながら、かかりつけ医、事業所、家族が良い関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している。家族にかわり、職員が対応することもある。	利用者の状況を一番理解してくれているかかりつけ医の継続を支援し、無理に協力医への変更は勧めていない。バイタル・脈・尿・水分量・食事量・排便の管理表を必要があればコピーして渡し、診察の参考にしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より体調や様子からとらえた気づきを看護師に密に連絡相談し、記録を残している。受診時には、必要な情報を家族やスタッフが持参するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前からのなじみのかかりつけ医を確認し本人家族と随時、相談しながら対応している。受診の際は、利用者さんのバイタル表や日頃の様子を書いたものを持参している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お元気な頃の本人の思い、またご家族の思いを十分に聞き取り、主治医、事業所を混じえて方針を決める。ご家族が思い通りの看取りができるよう、医師とも密に連絡をとり対応していく。開所4か月目以降ない。	入所時に看取りの希望について確認をしている。ほとんどの家族はここで看取って欲しいと要望するが、急変した際に家族の意向を再度確認すると、医療処置を望まれそのまま入院することが多い。開所4か月目以降事業所で看取り支援を実施したことがない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師の指導の下、救命救急法の指導を受けたり、定期的に勉強会を行い、毎回テーマに沿ってスタッフ皆で確認し合っている。宿直者の常勤により、夜間の対応も不安感が減少した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	マニュアルを作成し、年に2回防災訓練を実施。消火避難方法や連絡方法の確認に加え、水害地震時の避難方法も地域の体制に沿って確認している。	28年から水害訓練も実施している。去年の6月は消防署立会いの下、利用者全員を車に乗せ避難場所である高屋中学校まで誘導をした。協力関係にある近所の人や、居室の配置を確認しに避難訓練へ参加してくれたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホーム内での利用者間の関係が穏やかでいられるよう会話の間を取り持ったり、代返したりして、利用者の人格を尊重し大切にしている。各居室にはいる時は本人の了解を得ている。	人生の先輩である利用者の人権を尊重した支援に努めている。トイレ誘導時、皆と一緒に居る時は「ちょっとお時間をもらえませんか」と声掛けし、一対一となった際に「トイレへ行きませんか」と声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で信頼関係を築き、利用者本人が思いや希望を気軽に伝えて頂けるよう努めている。また、自己決定できるような場面を提供するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の体調や気分を考慮したうえで対応している。一人で過ごす時間を大切にしたいよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により訪問理美容を利用している。その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。整髪・髭剃りは清潔感が保てるよう起床時に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる能力に応じて、盛り付け、片付け等を一緒にしている。また、季節や行事、食材の旬に合わせ、月1回のペースで行事食を計画している。計画の際も入居者の意見を基に決めている。	毎月利用者に食べたい物を尋ね、お楽しみランチで提供をしている。その時は利用者にごしらえを手伝ってもらい、職員と利用者は仲良く食事をしている。白飯だけでは食が進まない場合は、利用者の好みのふりかけを提供している。	お楽しみランチ以外のこよしランチの際も、職員と利用者が一緒に同じテーブルを囲んで食事をする機会として欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録に残し、体調や排泄、睡眠など考慮し、食事の形態や量等一人ひとりの状況に合わせる支援をしている。家族に理解協力をお願いし嗜好品や栄養補助食品を提供することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。個々の能力に応じ見守りや仕上げ磨きを行っている。義歯を洗浄剤に漬け、清潔を保っている。状態により歯科受診も相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調や安全を考慮したうえで、出来る限りトイレでの排泄を支援している。日々排泄表に記入し個々の仕草や排泄の間隔を見ながら、声掛け・誘導を行っている。	転倒の心配がなければ、排泄時は扉の外で待ち、利用者に終わったらコールを鳴らしてと伝えている。立ち座りが出来る利用者には「手すりを持って下さい」と言葉とジェスチャーで示し、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食に手作りのヨーグルトを添えて食べて頂いている。また、水分が不足しないよう一人ひとり摂りやすい飲物やタイミングを工夫し勧めている。家族にもお願いして、自宅で好んでいた物を持参いただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特殊浴槽にてまたぐ動作なく入浴でき、毎回さら湯に浸かって頂いている。受診や外泊、体調など考慮し週3回、職員と1対1で話しながらのゆっくりとした時間になっている。	利用者が「服を脱ぐと寒いから入浴は嫌だ」と言われる場合、服を着た状態で浴室に入ってもらい浴槽に浸かる寸前に脱いでもらい、入浴への嫌なイメージを持たないように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の睡眠に影響しない程度の昼寝を勧めたり、肩や足のマッサージ、足浴等一人ひとりの状況や生活習慣に応じて勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を見るように心がけている。看護師が仕分けし、服薬まで何回も確認し服薬時も声に出して確認、誤飲を防止するよう気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月ごとの担当者が手作業やレクの企画準備をしている。得意な事、興味のあることを生活に取り入れ、役割を持ち、満足感や達成感を味わったり、気分転換を出来るような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少しでも屋外に出られるよう庭先まで洗濯干しに出たり、買い物と一緒にいたり、出かけやすい季節には頻回にドライブ、散歩に出かけるようにしている。が、なかなか満足できるだけの機会の確保が難しい。家族との受診や外食もいい機会になっている。	気分転換に外へ出たいと希望する利用者には、一緒に洗濯物を干したり取り込んだり、デイサービスへおやつを取りに行ったり等、屋外へ行く機会を作っている。気候の良い春や秋には、時間を作ってドライブに出かけるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不要なお金は持っていたかないようにしている。欲しいものがある時には家族と連絡をとり合い対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望がある時には家族に伝え、支障の無いように支援している。また、以前からの大切な関係が続けられるよう手紙の投函を手伝ったり、趣味の句や詠の応募も応援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、行事の写真や書道などの作品なども掲示し、憩いの場となるよう気をつけている。また、空気清浄器やオゾン発生装置を設置し、温度や湿度、臭い、除菌に気を付け、快適に安心して暮らせる空間をつくっている。	寒がりな利用者の為に、色々な工夫を凝らしている。脱衣所の扉からの冷気を防ぐため、手作りのカーテンを引き防寒対策をしている。直に足が床に触れると寒いので、タオルを敷いている。転倒防止として、通路に余分な物を置かないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルがあり、個々にその時の気分に合わせて座って頂いている。利用者同士の関係を見ながら穏やかに過ごしていただけるよう席の配置には気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用しているものを持ち込んで頂き、少しでも落ち着ける環境を、と考えている。利用者ごとに担当の職員を決め、整理整頓にも努めている。家族の写真もあり、話の花が咲くきっかけにもなっている。	家具や思い出の品々を持ち込み、家庭的な雰囲気・住み慣れた環境に少しでも近づくよう工夫している。目がほとんど見えない利用者から娘の写真が欲しいと要望され、よく見えるよう拡大した写真を置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、安全に移動できるよう廊下に物を置かないように気をつけている。部屋の表札も視線にあわせ低めに設置し、「安全」かつできるだけ「自立」につながるよう工夫している。		